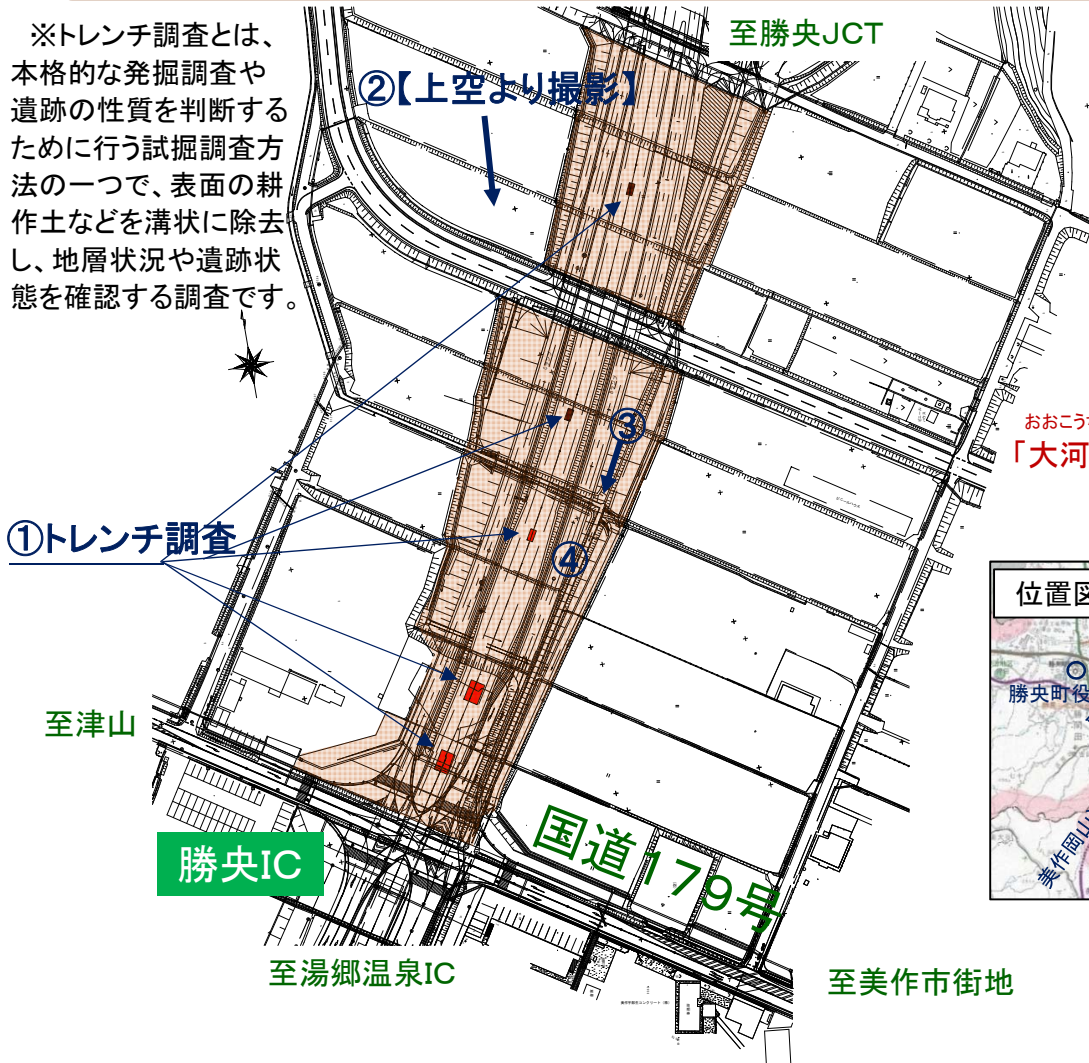


平素より美作岡山道路の建設推進にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
 道路事業等を行うときには、埋蔵文化財の有無を確認し、事業を進めることとなっています。
 実際、勝央ICから勝央JCT間では、埋蔵文化財の保護・保全のため、10件の遺跡を調査しました。
 本号では、その中の大河内遺跡・及遺跡の発掘調査を事例に、文化財調査の流れを紹介させていただきます。
 全体の流れは下記「埋蔵文化財調査の流れについて」を参照していただきたいのですが、本箇所では、トレンチ調査(※)等で遺跡の分布状態や深さ等を確認したうえで、県教育委員会と協議して保存方法を決定しました。
 なお、現状のまま保存することが困難なものについては、発掘調査を行い、やむを得ず記録保存としました。

～ おおこうちいせき およびいせき 大河内遺跡・及遺跡の埋蔵文化財 ～

※トレンチ調査とは、本格的な発掘調査や遺跡の性質を判断するために、表面の耕作土などを溝状に除去し、地層状況や遺跡状態を確認する調査です。

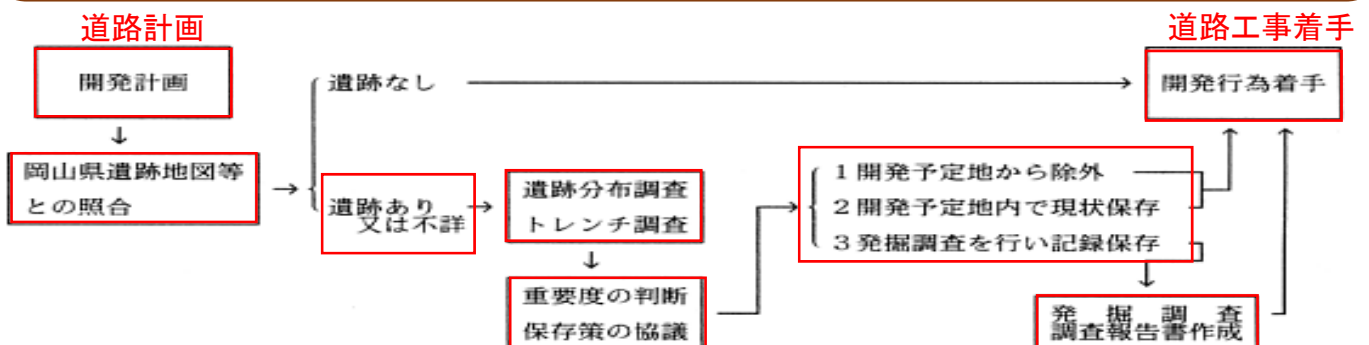


岡山県マスコット「ももっち」「うらっち」と仲間たち

おおこうちいせき およびいせき 「大河内遺跡・及遺跡」の調査範囲



～ 埋蔵文化財調査の流れについて ～



～ 調査状況写真及び出土品写真 ～

①トレンチ調査の状況



発掘調査の流れ

・トレンチ調査では、幅1～2m、深さ1～2mの掘削を行い、地層状況や遺跡状態を確認し、重要度の判断や、保存方法の協議を行いました。



②発掘調査状況(勝央ICの北側上空より撮影)



・トレンチ調査等の結果、記録保存が必要と判断された場合は、発掘調査を行いました。



・発掘調査の結果については、岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書として刊行されています。なお、出土品については、岡山県古代吉備文化財センター(岡山市北区西花尻)に保管されています。

※発掘調査は、用地買収後に行います。

③発掘の様子



④出土品



勝央IC～勝央JCT間に所在する10件の遺跡を調査した結果、弥生時代から室町時代にかけての集落跡や墳墓、生産遺跡、交通路などが見つかりました。

及遺跡では鎌倉時代の土取り跡を確認し、この地域で展開された中世土器生産について新たな知見が得られています。

また、他の遺跡からは、古墳時代後期の鉄生産遺構やそれに関わる集落・古墳などが見つかりました。

飯岡地区にも様々な遺跡が所在することが分かっていますので、県教育委員会と協議のうえ、適切に対応を行うこととしています。